

令和4年度 第4回 追分小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月13日（月） 13時30分から15時00分まで
- 2 開催場所 浜松市立追分小学校 会議室
- 3 出席委員 松田 勝、松本 依子、小山 正博、大澤 一夫、内山 丈夫、河村 進、村上 美代子、今泉 るり子
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 坪井 百合子（校長）、高木 康泰（教頭）、佐野 尚也（CS担当）
山田 公子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 協議事項
 - （1）議長の確認について
 - （2）学校関係者評価について
 - （3）学校運営協議会の自己評価について
 - （4）令和5年度学校運営基本方針の概要説明
 - （5）夢育やらまいかCS加配分の報告
 - （6）次年度の会長・副会長の確認
 - （7）次回の議長の選出
- 9 会議録作成者 CSディレクター 山田 公子
- 10 会議記録

教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）議長の選出について

会長から、議長について委員に確認を行い、前回決定事項である松本副会長を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

（2）学校関係者評価について

議長の指示により、佐野（CS担当）から、別紙資料に基づき学校評価アンケートの結果報告をした。第1回学校運営協議会にて承認された学校運営の基本方針に基づき教育活動を行ってきたことに対するの、児童・保護者・教員へのアンケートであり、結果を受け、よりよい学校づくりを目指すために必要な改善点や持続すべき点についての説明があった。

これを受け、委員からは、以下の発言があった。

① 挨拶について

- ・登下校時、春頃にはきちんと挨拶が出来るが、1年の終わりにはできなくなる子供が多い。親しみをもって挨拶ができると、こちらからも声掛けする中でコミュニケーションがとりやすく

なる。挨拶によって1日のスタートを気持ちよく切ることができ、顔見知りになることで防犯対策にも繋がる。学校での指導だけでなく、親など身近な大人が率先して子供に手本を見せることが有効である。学校からPTAの方々に、家庭での挨拶や、学校内や登下校における子供たち挨拶の促進の呼び掛けをするのはどうか。(小山委員)

- ・ 旗当番の際、子供たちから挨拶をすることはなかなか難しいように感じた。低学年の方が挨拶をしてあげることが多い。自分は、こちらから挨拶することを心掛け、知っている子には名前を呼んで挨拶をしている。他方、北部中学校では、校門をくぐるとすぐにみんなが「こんにちは」と声を掛けてくれる。学校全体がそういう雰囲気なのであろう。小学生ならもっとできると思っている。挨拶が当たり前の雰囲気作りが大切ではないか。(今泉委員)
- ・ 下校時刻に校区を歩く際、こちらから声を掛けていいのか大人でも躊躇してしまう。頻りに顔を合わせていけばいいが、コロナ禍でマスクをし、知らない大人だと、子供も戸惑うのではないか。せめて、学校の中に来ている大人には必ず声を掛けるなど、まずは安心して挨拶しやすいところから始めていくのはどうか。(村上委員)
- ・ 日常の朝夕の挨拶だけでなく、話の相槌(頷き)や、例えば配布物を回すときに顔を合わせて渡し、「ありがとう」と返事をするといった体験をすることで、気持ちを通わせ、相互の存在を認めることに繋がる。細かい場面で体験して気分のよさを味わうことで雰囲気作りができ、それを褒めるといった種を蒔くことの積み重ねが必要だ。(松田会長)
- ・ 挨拶については他の委員と同じ意見である。家庭でも挨拶は普段からしているが、成長するにつれ、声が小さくなるなど少し消極的になるようだ。できる子供、できない子供、声が大きい子供、恥ずかしがる子供等、子供によって表れは様々である。日頃からの何気ない声掛けで、小さな声でも発することにより、挨拶が自然にできるようになるのではないか。(河村委員)
- ・ 家庭や学校で、繰り返し行っていくことが重要である。各々に合ったやり方で、対応や指導に緩急をつけて創意工夫をし、一つの目標に向かって自らのやる気を起こさせることが大切だと感じる。(内山委員)
- ・ 個人の性格もあるが、挨拶は、まずは家の中でしっかりと行っていくのが一番だと思う。(大澤委員)
- ・ 小山委員の「大人から声を掛ける」や、今泉委員の「名前を呼んでから挨拶する」という行動は素晴らしい。また、中学生では、部活動の子供が気持ちよく挨拶をしてくれている。(松本議長)

② 運動・体を動かす・外遊びの習慣化

- ・ 近くの公園では、よく体を動かしている子供を見かける。校庭で遊ぶ姿も見かけるため、自然環境の変化はあれども、心配はいらないと感じる。現代は昔に比べて子供は少ないので、外で活動する子供が少なく見えるのかもしれないが、比較すると割合はあまり変わっていないのではないか。(小山委員)
- ・ 放課後、他学年と校庭で遊ぶなど、全員ではないが交流はあるようだ。休日はタブレットやゲームなど自宅で過ごすことも多いかもしれないが、校庭や公園など「ここに行けば学校の誰かがいる」と認識できている子供もいる。運動に限らず、外遊びで体を動かさせていると思う。(河村委員)

③ 読書・タブレット使用について

- ・読書が少ないのは気になる。ただし、本を読むだけでなく情報は多様化しており、そもそも本を読むことの大切さ・必要性を議論しないと本質に迫れない。現代の生活様式に大人も追いつくための教育の必要性を感じる。今の保護者のやり方があるので、昔の考えを押しつけず、評価の仕方や設問の仕方も工夫が必要ではないか。(大澤委員)
- ・タブレットを使いこなせるのはよいことである。タブレットを使用し、一つのテーマを大人数に発表する前に少人数で確認することで、気負いなくやりやすくなると思われる。また、情報を得ることは大切なので、タブレットだけでなく本を使うという手段も有用だ。「こういう場面ではこういうきまりがある」という共通認識を教員内でもち、歩調を合わせることも重要である。(松田会長)
- ・パソコンを使うことで情報量が変わってくる。また、今後の社会・仕事においてはパソコン使用の必要性は高まる。推進していくべきではあるが、その中で通常の学習をどう進めていくかが大切だ。(内山委員)
- ・読書が減ったというよりも、選択肢が増えたということではないか。(小山委員)
- ・設問は、「調べ学習ではどのツールを使用しているか」などに変えても良いと思う。(松本議長)
- ・運営協議会内で共通認識がもてていることが分かって良かった。来年度、休み時間のタブレットの使い方を統一したいと考えている。挨拶は、年度始めに声を掛け、挨拶名人を目指して頑張っている子も多かったが、次第にできなくなっていく傾向があるため、今後の課題として取り組んでいきたい。(校長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。また、現在の実情や課題、改善策の認識を共有した。

(3) 追分小学校運営協議会の自己評価について

議長より、別紙資料に基づき、自己評価について意見を求めたところ、委員から以下の発言があった。

- ・物事は具体をきちんとしてから、抽象にまとめることが大切だ。日常生活の細かなことを注視していき、その具体から子供の望む姿を描いて目指していくことが大切である。(松田会長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(4) 令和5年度学校運営基本方針について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき令和5年度学校運営基本方針について説明があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(5) 夢育やらまいかCS加配分の報告について

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき夢育やらまいかCS加配分について説明があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(6) 次年度の会長・副会長について

司会から、次年度の会長・副会長について、松田会長・松本副会長を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(7) 次回の議長について

司会から、次回の議長について松本副会長を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

司会から、次回会議は、2023年4月27日（木）午後1時30分から追分小学校会議室で開催する旨の報告があった。